

新型コロナウイルス対策

感染防止のブレーキを弱めに踏んで、

感染拡大を助長するアクセルを踏む異常

晩秋から新型コロナの第3波がきて、師走に一日の感染者数が過去最多になり、感染拡大はさらに広がろうとしている。人との接触が少ない警察の留置場でも感染が広がる状況である。その中で、医療崩壊が起きようとしている。また、労働者の解雇も増え、自殺者も急増している。年を越せない人々が多数出る事態も予測される。

しかし、国も都も感染拡大を本気で止めようとしなない。いや、止めようとしなないのではなく、止めるつもりはないと思えるのである。第1波の時は、曲がりなりにも緊急事態宣言を出し、「国民よ、動くな」「ステイホーム」と言って、一応、感染拡大を抑えようとした。

ところが、第3波は、第1波よりも感染拡大が大きくなっているのに、菅政権の対応は全く違っている。人の移動、接触は避けて欲しいと精神論で言うだけで、アメリカやヨーロッパよりも感染者数など少ないから緊急事態宣言など出すつもりはない、金のかかる検査拡大や医療機関への補助も行わない、もう全国民に給付金などは出さない、場当たり的な対応でよい、経済のほうが重要と考えているようだ。

誰のための追加経済対策なのか

そのことは、菅内閣が12月上旬に決定した追加経済対策に表れている。

追加経済対策の事業規模は73.6兆円だが、政府の財政支出は40兆円となっている。その40兆円うち新型コロナ感染防止対策は5.9兆円とわずか1割5分の金額である。

今何よりも必要である医療機関への減収補てんやPCR検査拡充の費用は全く計上していない。中小業者への持続化給付金、家賃支援給付金は打ち切りだ。その一方で、人の移動を進め感染拡大を招くと言われている「Go To トラベル」事業は2021年6月まで延長する。まさに、感染防止のブレーキを弱めに踏んで、感染拡大を助長するアクセルを踏むという異常なやり方だ。

このまま感染拡大が続けば、医療提供体制が危機的状態に陥り、医療崩壊が起きると専門家が警鐘を鳴らす。通常の病気にも医療提供体制が対応できなくなると言う。

根底に流れる新自由主義の考え方

あの尾身会長ですら、「Go To トラベルは一時中止」を言っている。それなのに、菅内閣は聞く耳を持たず、国民のいのちよりも経済活動重視で行こうとしている。最近になってやっと、地域限定で止めることを言い出した。

財政支出のうち「ポストコロナに向けた経済構造の転換・好循環の実現」と「国土強靱化」

の支出が6割を占める。不要不急の大型公共事業や次世代通信の技術開発促進をはじめ大企業への支援策が並び、マイナンバーカードを普及するため、健康保険証との一体化も進めるとしている。

中小企業対策は、新事業の展開や業態転換への補助金創設をはじめ「生産性の向上」「事業再構築」が中心で、倒産、休廃業を防ぐ支援策はなく、中小企業の淘汰はやむを得ないとしている。まさに、コロナ禍で「自助」「自己責任」を押し付けるものだ。

「自己責任」を押し付けるやり方は、新自由主義の最たるものである。その新自由主義の政治をこれまで自民党政治は進めてきた。菅内閣もその路線で政治を行っていて、コロナ禍の教訓を無視して改めようとせず、これからも行おうとしている。

新自由主義の政治が進めてきたものは、公共事業の民営化、公務員削減、規制緩和、市場万能主義による経済、医療の削減・負担増、保健所・公衆衛生の削減などであり、その影響で貧困と格差が拡大し、国民生活が極端に悪化した。「資本の利益を優先する」、「小さな政府」、「自己責任」の新自由主義は、企業のもうけにならない災害対策や医療・公衆衛生対策などを削減してきたのだ。

政権を変えなければ国民のいのちが危ない

こうした削減によって、今回の新型コロナの感染拡大に十分な対応ができなかったという点で、新自由主義の政策は、国民からみて破綻していると言える。今、コロナ禍で医療の充実をしなければならない時に、75歳以上の医療費窓口負担を倍の2割負担にし、高齢者の受診抑制を招こうとしている。コロナ禍で平然として弱者への負担増を求めるものを出すのは国民感情と大きくずれている。

新自由主義の政治・社会を改めて、憲法が活かされる社会が実現されなければならないと痛感する。菅首相の言う「自助・共助・公助」ではなく「公助・共助・自助」の順番の社会構築こそ求められなければならない。

100年前のスペイン風邪の流行が収まるのに3年かかった。今回は、収まるのには、ワクチンが広まるとはいえ、また、感染防止対策をおざなりにしているせいで、最低あと1年以上はかかるだろうと思われる。その無策の影響で国民には、今後も多大な犠牲を強いるものである。そんな政府をいつまでも続けさせてはならない。

(千代田区労協議長 小林秀治)

*千代田区労協通信バックナンバー／http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2020.htm

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。